京新聞　（第3種郵便物認可）

足かせ 議員危機感薄く

「野党低迷で議論にならず」

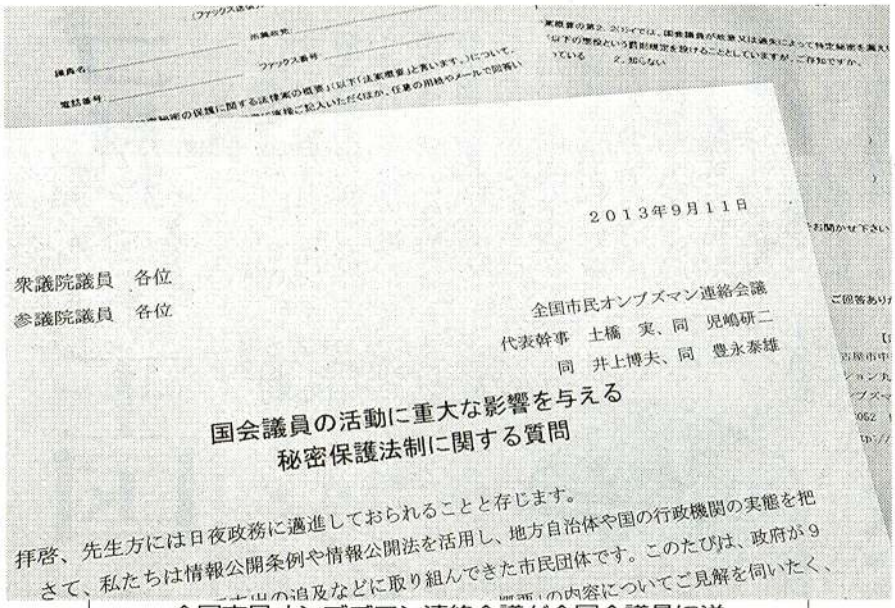
い国会議員の権利がある。憲法六二条で定めている国政調査権だ。各省庁などは国会議員から資料要求などがあれば原則、拒むことはできない。ところが、秘密保護法案が成立すれば矛盾が生じる。井上氏は「まだ法案の概要しか公表されていないので詳しく内容を知らないのかもしれないが、国会議員はもっと深く関心を持つべきだろう」と訴える。

しかし、国会議員の危機感は薄い。

法案内容を協議する自民党の「インテリジェンス・秘密保全等検討プロジェクトチーム」（座長・町村信孝元外相）では、国会審議への影響についてはほとんど議論されていないという。

議員の法案に対する認識不足を心配する全国市民オンブズマン連絡会議は今月十一日、全議員に対し、法案概要に関する質問状を送付した。質問は大きく四つあり、ポイントは「国会への特定秘密の提供方法」と「国会議員が特定秘密を漏えいした場合の罰則規定」。今月末が締め切りだが、回答はまだ少ない。

同会議事務局長の新海聡弁護士は「自民党は『官僚を抑え付ければ、お手盛りができる』とでも考えているのかもしれない。だが、官僚が国会に対しても恣意的に情報隠しをすれば、議論をコントロールできる。議員には法案について考えてほしい」と強調した。



2013年9月11日

衆議院議員　各位
参議院議員　各位

全国市民オンブズマン連絡会議
代表幹事　土橋　実、同　児嶋研二
同　井上博夫、同　豊永泰雄

国会議員の活動に重大な影響を与える
秘密保護法制に関する質問

拝啓、先生方には日夜政務に邁進しておられることと存じます。
さて、私たちは情報公開条例や情報公開法を活用し、地方自治体や国の行政機関の実態を把

全国市民オンブズマン連絡会議が全国会議員に送った秘密保護法案のアンケート（一部画像処理）

国会を否定する自殺行為ともなりかねない法案にもかかわらず、議論が沸き起こらないのはなぜか。

政治評論家の森田実氏は「野党が弱体化してしまい、自民党に何も言えなくなっている。民主党が倒れて、日本維新の会など、自民党の補完勢力が数を増やし、国会が『オール安倍化』している」と指摘した。その上で「議論すべき法案の議論ができず、非常に危ない状況。私が中学一年の時に第二次世界大戦の終戦を迎えたが、共産党が『アカ』と呼ばれ、弾圧された戦前の世相を感じる。成立して誰かが逮捕されてから気付いても、もう遅い」と断じる。

自民党の「インテリジェンス・秘密保全等検討プロジェクトチーム」の会合であいさつする町村信孝元外相㊥＝8月27日、東京・永田町の党本部

法案概要では、地方自治体について触れていないことも懸念材料だ。秘密対象の「防衛」「テロ対策」など四分野は一見すると地方自治には無関係にも映るが、大きく影を落とす。例えば、テロ対策にかこつければ、自治体が持つ原発関連の情報も秘密に指定されかねない。

「東北電力女川原発（宮城県）の使用済み核燃料の輸送ルートについて宮城県から一部開示されたが、秘密保護法によって不開示にできる。今や施設についても、テロ対策を理由に不開示にできる。在日米軍基地に関する自治体の情報も対象にでき、恐ろしい秘密国家になる」（新海氏）

自治体や地方議員に危機感が欠如しているのは言うまでもない。

前出の井上氏は、国権の最高機関に所属する議員の「プライド」に望みをつなぐ。

「法案の審議では国会議員としての見識、プライドが問われる。あらためて言うまでもなく、行政機関を監督し、問題があれば是正させるのが国会議員の大きな仕事。それを侵されようとしているのだから、党派の枠にとらわれることなく、慎重かつ徹底的に議論をする必要がある」

国権の最高機関 問われる見識

デスクメモ

町村元外相は秘密保護法案の旗振り役である。父の町村金五元参院議員は、一九八〇年代に一度は葬られた国家秘密法案の促進議員懇談会の顧問を務めた。同会の会長は、安倍晋三首相の祖父である岸信介元首相。情報統制への飽くなき執念を受け継いだ二、三世が今、亡霊の復活に血道を上げる。（圭）